

遠隔から支援・指導

スマートグラス試験導入

三重・JA伊勢

【三重・伊勢】JA伊勢は、カメラ付き眼鏡型端末「スマートグラス」を試験的に導入した。ベテラン職員・生産者の作業を撮影した



スマートグラスの映像を確認しながら
コントローラーで作業をする職員

り、リアルタイムで画像・音声・映像を共有したりできる機材。若手職員や新規就農者らへの操作・栽培技術の継承が期待される。

導入の背景には、職員の世代交代で、栽培技術の習得が急務になっていることや、ライセンサーの操作方法などのノウハウを継承する必要があることなどが挙げられる。

スマートグラスを活用すれば、作業マニュアルが映像として残せる。また、何度も見返すことができる。若い職員に対して、遠隔地からの確な支援・指示も可能となる。

6月上旬には、同J

A玉城カントリーエレベーターで、色彩選別

機を操作する若手職員がスマートグラスを着用し、ベテラン職員が遠隔地からその映像を確認し、小麦の調製作業を支援・指示した。作業指示を出した職員は「これまではスマートフォンでのビデオ通話機能を使っていたが、スマートグラスでは職員の視線にペンでマーカーを入れることができ、指示の伝達が

田滑だった」と話す。5月下旬には、野菜やかんきつ、花きなど作物生産組織の部会長らにスマートグラスを着用してもらい、摘果作業（てきらい）・摘果作業や出荷調製作業などを撮影した。

同JAは今後、着用した職員や生産者らの意見を基に、本格導入に向けて調整を進めていく。